

2014年東京都知事選挙における候補者マニフェストのできばえチェック表

基本項目	詳細項目	配点	候補者名	候補者名	候補者名	候補者名
			宇都宮 健児	田母神 俊雄	細川護熙	舛添 要一
① 理念	ありたい姿があるか	10	7.67	7.33	7.67	5.33
	ありたい姿を目指す理由が示されているか					
	地域の課題を踏まえた内容になっているか					
② 政策の一貫性	政策が体系化されているか	10	7.00	5.67	6.00	5.33
	矛盾する政策がないか					
	地域事情にあった政策があるか					
③ 政策の具体性	政策が具体的な内容になっているか	20	9.67	7.00	8.67	7.00
	政策の内容は、実行可能なものか					
	政策の達成度の事後検証は可能か					
④ 市民起 点度	読みやすい工夫がされているか	10	5.33	5.00	4.67	3.67
	マニフェストを周知するための工夫がされているか					
	マニフェストに市民の声を取りこむ努力をしたか					
計		50	29.67	25.00	27.01	21.33
100点に換算		100	59.34	50.00	54.02	42.66
コメント		<p>理念・方向性が明確であり、個別政策が多岐に渡って示されている。ただし、具体的な達成手段、工程が不明なものも少なくない。東京都の課題が幅広く捉えられているが、「あれもこれも」の典型的なウィッシュ・リストとなっている。これまでの都政からの転換を志向する政策が多く示されているが、多額の新たな財政出動を必要とするものが多い。優先順位が示されておらず、財源の裏付けもないことから、政策の実効性が担保されていない。マニフェストは、要約版でもかなりの分量で、全体像がわかりにくい。公式サイトについては、見やすく動画も充実している。政策ビラにマニフェストの内容を比較的きちんと掲載している点は評価できる。</p> <p>基本的に現都政を継承しつつ、自身のバックグラウンドを生かして防災等に重点化する方向性は明確に示されている。また、「守る」「育てる」「創る」の3つの柱にシンプルに分けているのもわかりやすい。ただし、その内容は情緒的なものや抽象的な方向性にとどまっているものが多く、具体的に何をどのように進めるのかが定かでない。また、3つの柱に単純化しているがゆえに、個別の政策の位置づけが曖昧で、体系的な担保されていない。原発については、基本的に国政マターという整理があるのかも知れないが、都民の関心が高まっている以上、政策の方向性を明確に示すべきではないか。</p> <p>原発ゼロと再生可能エネルギーへの転換の方向性が明確に打ち出されている。ただし、そのゴールに至る具体的な工程までは明示されていない。また、成長戦略も原発ゼロと結びつけられているが、経済活性化という面で十分か、疑問が残る。全体として、5つの方向性に絞って、わかりやすく政策がまとめてある。財源は示されていないが、全体的にハード整備を抑制するトーンであり、原発ゼロを別にすれば、一定の実現可能性を見込むことができる。「オリンピックまでに変える」というスローガンは、明確な期限とまではいえないが、取組のスピード感の指針となる。政策や政策資料、記者会見内容をダウンロードできるようにしてあるのはよい。</p> <p>「東京世界一」というスローガンはよいが、どのような世界一を目指すのか、が今一つはつきりしない。政策の柱ごとに理念がまとめられているが、それぞれの柱の下に示されている数多くの政策の例示が総花的で、抽象的なものが多く、かえって方向性をわかりにくくしている。要約版としては細かく、詳細版としては粗い、中途半端な印象がある。東京都の多岐に渡る政策課題に幅広く対応していくことがわかり、その点は安心感にもつながるが、どの課題を重視し、具体的にどのような方向にどのような手順で対応していくのか、さらなる絞込みも必要となるのではないかと感じる。</p>				

10点・・・・条件を満たしている

条件を満たす割合に応じて0点～10点で配点(11段階)
 (例)条件の8割程度満たしている:8点
 条件の3割程度満たしている:3点、等

0点・・・・条件を満たしていない

※「③政策の具体性・実現可能性」は2倍の配点
 ※複数名によるチェックを行い、その平均点を得点として記載した

<全体コメント>

全体として合格点には達しない。マニフェスト登場前と比較すれば多少はよくなっているが、マニフェスト運動が高まったときからは明らかに後退している。これは、この程度の公約でよい、と有権者が軽視されていると受け取るべきである。印刷物にして配布することもなされていない。これでは有権者は十分な政策の比較・検討ができない。これは、政策を有権者に届けていないというだけでなく、そもそも各陣営とも、紙に書いて明確に出せるだけ政策が煮詰められていないのである。マニフェストを書かなければならないというプレッシャーから、政治家・政党が選挙時に政策について一生懸命議論するようになった。民主党の失敗は、その政策議論がまだ足りなかったものであり、我々はさらにプレッシャーを高めなければならないはずである。この程度の政策でよいと、政治家が高をくくる、楽をすることでよいのだろうか。1,300万人の都民の未来、10兆円を超える予算の使い道を決める、国政のこれからにも多大な影響を及ぼす「大」東京都のリーダーを決めるのに、この程度の政策の提示でよいのか、我々はもう一度真剣に考え直す必要があるのではないかと感じる。